

勝浦中学校林業体験②（座学）

林野庁 関東森林管理局 千葉森林管理事務所

令和3年12月17日、勝浦中学校2年生の皆さんに向けて「林業体験のまとめの授業」を行いました。1ヶ月ほど前の11月4日に、勝浦市大森の妙見山国有林で鎌研ぎと下刈作業を体験した皆さんです。初めに森林インストラクターの先生から森林・林業に関する講義があり、生徒たちはスクリーンに映された森林整備の解説や、自分たちが下刈作業を行った現地の写真などに見入っていました。その後、千葉森林管理事務所職員が「鎌研ぎのおさらい」「林業主要木の判定」「森林の危険生物」「国有林と千葉森林管理事務所業務の紹介」を講義しました。

中でも盛り上がったのが、林業主要木であるスギ・ヒノキなどの樹種判定です。まずは生徒一人ひとりにスギとヒノキを薄く切ったツキ板が配布され、どちらの樹種か考えてもらいました。各自で色や手触り、香りを確認した後、「どちらか分かる人！」の呼びかけに手を挙げてくれた生徒は、見事正解を答えてくれました。続いて、スギ、ヒノキ、アスナロ、モミ、先輩達が春に植えたクヌギの葉をクラスごとに回し、何の葉かを当ててもらいました。スギ・ヒノキは分かった生徒もいましたが、ヒノキとアスナロの区別は難しかったようで、「ヒノキは裏がアルファベットのY、アスナロはWのように見える」という説明をして再度見てもらうと、生徒たちも納得の様子でした。

また、近年問題になっているマダニ刺咬による感染症の致死率の高さ（10~30%）について、新型コロナウイルスの致死率（1%）と比較説明することで、その危険性に対する理解を深めてもらいました。

最後に、国有林やそれを管理する林野庁の組織、また千葉森林管理事務所で行っている業務について紹介しました。勝浦市は面積の約6割が森林で、その内約1/4を国有林が占めており、当所の上野・大多喜森林事務所も市内にあります。身近な場所で森林に関する様々な仕事が行われていることを知ってもらえました。

今回の一連の林業体験学習によって、ふるさとの森林・林業やその一端を担う国有林への興味を深めてもらえたと確信しています。



スギとヒノキの板を判定中…



何の葉でしょうか？



業務紹介も熱心に聞いてくれました